

介護人材の育成、政策課題についての国際比較研究

所属・氏名 地域創造学類 森山 治

要旨

日本・フィンランド・韓国等の介護人材の育成と労働政策・移民政策を、社会的包摂の視点から比較・整理することを通して、流動化・国際化する介護人材の導入政策及びキャリア形成を視野に入れた介護人材育成に対する政策課題を明らかにする。

* 研究の背景

先進諸国において少子高齢化社会が進行するなか、高齢者介護を中心とした介護労働力の不足が共通に深刻化している。

将来にわたり介護労働力が不足することが明らかである現状に対して、各国共に行われている政策には、自国内での介護人材養成に加えて、発展途上国を中心とした近隣諸国からの介護労働力の受け入れがある(介護のグローバル化)。

こうした社会背景をもとに、筆者らは介護労働の「ない手・介護の質」についての共同研究を、2009年から継続しておこなっている。

* 研究方法

・文献研究及び現地調査による課題の抽出

* 課題

・社会的包摂の概念及びそこから導き出される移民労働政策の相違についての比較・整理、外国人介護労働者の導入にあたっての課題を抽出する。

・各国における「介護」概念の相違、介護・労働・社会保障制度・政策の枠組みについての比較・整理を行なう。介護労働力のグローバル化を促進するための課題を抽出する。

・国内で働く介護労働者の定着や新たな人材の確保にむけて労働条件の向上やキャリア形成システムの再編にあたっての課題を抽出する。

現地調査の様子(フィンランド・韓国)



研究の結果(研究結果の公表)



■まとめ

筆者らの研究の特色は「言語」に着目し、使用人口が少なく、使用する国や地域が限定され、その国の大部分の人だけが使用している言語を「ローカル言語」と表現し、その条件にあてはまる韓国及びフィンランドを主な比較対象として研究を続けてきたところにある。その一環として、介護人材のグローバル化とともに、介護サービス利用者のグローバル化が進行する我が国の実情もあきらかにし、外国人介護人材の必要性を介護の質の向上との視点で論じている。